

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472900246		
法人名	医療法人豊和会		
事業所名	グループホーム 第2やまもも		
所在地	三重県志摩市阿児町鵜方2555-9		
自己評価作成日	平成27年 6月 10日	評価結果市町提出日	平成27年8月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2472900246-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27 年 7 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院併設のグループホームであり、希望に応じてリハビリテーションを行ったり、医師や看護師と24時間連絡が取れる体制が整っているため、急変時の対応など安心である。職員は利用者様一人ひとりの思いを大切に個々の対応を心掛け、皆さんが笑顔あふれる毎日をご過ごしていただけるよう、ご自宅でごつろいでいるような安らげるグループホームとなるよう日々努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

落ち着いた余裕が感じられるベテランの介護職員が多く、家族的な雰囲気があるグループホームである。利用者の体調不良や緊急時に対応出来る病院が併設していることも職員の安心感やゆとりにつながり、利用者への優しい対応になっている。職員と利用者が家族のように暮らすには食事なども一緒に摂ることが大事であり、職員が自分たちも食べる食事を作り、職員と利用者が一緒に栄養のある美味しい食事を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着を常に意識し、「ゆったり、楽しく、一緒に、豊かに」生活できる利用者様の『家』となるよう心にとどめサービス提供に努めている。	開所以来の理念「第2やまももは志摩市の一員としてゆったり、楽しく、一緒に、豊かに私らしく暮らす家を目指します」を事務所内外に貼り、勉強会で職員全員が共有して実現できるように努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の道路掃除に参加したり、地域の祭りに参加するなど、地元の方々とのつながりを意識した行事を多く取り入れるよう配慮している。	散歩などでご近所さんと遭うことはないが、運営推進会議に自治会長や民生委員の参加はある。また、意見交換会や施設内の運動会に参加していただいております、小学校の運動会や地元の祭りにも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症についての勉強会を行ったり、日頃のケアの中で心掛けてしていることなどを発表したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日頃の活動報告や外部評価結果の報告を行い、様々な立場の方のご意見を伺うことで、より良い運営に生かしている。	2ヶ月に1回(奇数月の第2火曜日)なるべくホームの行事に合せて開催している。参加者は民生委員、自治会、老人会、志摩市介護保険課、ふくし総合支援室、病院看護師長、入居者、家族、ホーム長、副ホーム長である。意見が活発に出ており、記録もきちんとされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に介護保険課とふくし総合支援室より1名ずつ参加して頂いており、ご意見を伺ったり、運営上の疑問など相談できる関係である。	統計調査の依頼が志摩市からあつて協力した。研修の情報を聞いたり、情報発信の依頼をしたり、行政のことに質問したりして色々協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会に参加したり、ホーム内で勉強会開き、身体拘束をしないケアの実践を積極的に行っている。	志摩市が行った研修会に施設代表が参加し、その後勉強会を開いたりして。建物の2階が施設となっているが、エレベーターは暗証番号を入力しないと乗れないようになっている。1階の玄関は中から開かないが外からは開いて入れる。言葉の拘束も無く穏やかに対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連の研修会に参加したり、ニュースなどを題材に話し合いを持つなど積極的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットをご家族や利用者様の判り易い場所に置いたり、職員も勉強会に参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談員が丁寧に説明を行い、十分ご理解納得頂いた上で契約している。また、入所前見学や体験入所にも応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口について掲示したり、重要事項説明書に記載している。また、カウンターにご意見箱を設置し、意見や要望を表して頂けるよう配慮している。	意見箱に書き込みをされる家族はほとんどいないが、運営推進会議に参加したり来訪された家族から意見を聞くようにしている。リハビリを多くして欲しい等の利用者の健康に関する意見がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや申し送りノートで気軽に各職員の意見等が伝えられるようにしている。管理者も常に職員と会話し、意見に耳を傾けるよう心掛けている。	日々の申し送り以外に月末土曜日14:00pmから会議をしている。職員同士お互いなんでも言い合える関係で、意見が反映されて食事のコンテナを導入したり入浴用のキャリアを購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課により職員の努力や実績に応じたキャリア、報酬につながる環境が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会についての情報提供を行ったり、業務中に研修に参加できるよう調整したり、資格取得について、受験費用の一部負担など行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	志摩市の介護サービス事業者連絡会に入り、情報交換を行ったり、会の研修会に参加しサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の聞き取りにゆっくり時間を取り、ホームでの過ごし方や要望などを伺い、その情報を全職員が共有しケアに生かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの段階から相談員とともに管理者も出来る限り同席し、入所に至った経緯や、家族が困っていることなどを伺い、信頼関係の構築に前向きに取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の心身の状況、出来る事、出来ない事などアセスメントし、家族も含めた要望を伺いケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過去の職歴や、出来る事、出来ない事、やりたい事など本人の気持ちを踏まえ、グループホームの家事を手伝って頂いたり、出来る事には手を出しすぎない介護を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの様子を伝える通信を発行して、定期的にご家族に届けている。簡単な連絡はメールを活用したり、気軽に電話などで連絡を取り合える関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りや自治会の行事に参加し、より良い関係が続いていくよう支援している。	職員は利用者の経歴を覚えて話題にすることを心掛けている。地元の祭りや元職員が経営する喫茶店に行ったりしてる。希望があれば墓参りもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のいい方、相性がいい方、悪い方など利用者様同士の関係はそれぞれなので、職員は関係性を理解し、利用者様がストレスなく毎日を送れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お便りを送ったり、ご家族も、気軽に訪ねてくれるよう声をかけ、関係の継続に前向きに取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご希望に添えるよう何気なく出る一言にも、耳を傾け、本人の気持ちをくむよう気を付けている。	出勤時に職員は前日の記録を確認している。その時に利用者の希望や意向が記入されているか確認している。また、入浴時や静かな雰囲気の際に会話で思いや意向を汲むようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時面接にゆっくりと時間をとり、家族も同席頂いてこれまでの暮らしについて、情報をたくさん把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン作成時に、心身の状態や、出来る事、出来ない事をチェックし、利用者様の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは、3ヶ月に1回見直しを行い、利用者様の現状に即したプランになるよう配慮している。家族にもプランの内容は見て頂き、希望を伺い、プランに取り入れている。	医師の参加は無いが3ヶ月に1回モニタリングをしている。ケアプランは看護師でもあるホーム長が作成し、家族の来訪時や送付して希望などを確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作り、食事、バイタル、排泄の記録や、日常の様子なども記入し、全職員が情報を共有するために活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院併設の為、体調不良時の受診や、リハビリなど柔軟に対応している。本年度より訪問診察も取り入れ、きめ細かい健康管理に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の参加者などから、地域資源の情報を収集したり、職員各々も意識して地域資源の把握に努め、利用者様へのサービス向上に生かしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院の医師が主治医であるが、本人や家族の希望に応じ、他の医療機関の受診も支援している。	利用者全員、併設している病院の医師が主治医となっており、定期健診もしている。他に歯科医の訪問診療や、目などの医療機関の受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している看護師と介護記録を共有し健康管理を行うとともに、介護上の疑問を相談したり、急変時に備え24時間連絡が取れる体制を整えるなど適切に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、グループホームの相談員が様々な調節を行い、医療機関との情報交換や家族の相談・調整に応じている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合のグループホームの指針について文書で説明し、納得頂いた上で入所して頂いている。看取りについても前向きに取り組んでいる。	今まで看取りは行われていないが、今後は家族の希望があれば看取りについても行っていく方針である。	今まで看取りの体制が出来ておらず看取りを積極的に行ってこなかったが、施設の方針が看取りも行うことになり、今後は、利用者と家族の意向に添えるようしっかりした体制作りを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時についてのマニュアルを作成し、慌てず対応出来るよう各職員に周知している。消防署の救命講習にも参加し、非常時に対応出来るよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常時の水や食料の確保と年2回の避難訓練、及び夜間想定避難訓練を年1回実施している。訓練には運営推進会議に参加している地元の方にも見て頂き、ご意見を伺ったりしている。	非常時の水や食料は3日分の備蓄をしている。6月と12月に消防署から来所指導の上、併設の病院と一緒に合同訓練を実施している。それとは別個に施設独自に夜間想定避難訓練も実施している。避難用の外階段が無いので3年前にスプリンクラーを市の補助で設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長い人生を歩いてこられた大先輩であるという事を心に留め、尊敬の念を持ってお世話をさせて頂く気持ちを忘れないようにしている。	ベテランの職員さんが多く職員同士でチェックしなくとも人格を尊重した対応をしている。家族が来所された時には個室で会話してもらっている。職員が個人的な話をする時には個室で話す配慮もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	マニュアル通りの一律の対応ではなく、1人ひとりの思いやこだわりを尊重した個々の対応を行うよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や、利用者様の気持ちを最優先にした一日の過ごし方をして頂くよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方はお任せし、出来ない方はお好みを伺いながら、身だしなみのお手伝いをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の好みや、器、形状など、利用者様が楽しく美味しく食事をして頂けるよう工夫している。準備や片付けなども、出来る範囲で手伝って頂いている。	お茶碗や箸は個人専用の物を使用している。食事は職員が調理して利用者と一緒に食べている。お刺身や煮魚などもメニューに入っており利用者に好評である。食べたいものを聞いて出すようにしており、3時のおやつにケーキなども食べられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に食事量は毎食ごとに記録し健康管理に努めている。水分補給は、いつでも飲んで頂けるよう、ペットボトルを各利用者様ごとに持って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の力に応じ、自分で出来る方は声かけを、出来ない方は介助して口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をもとにそれぞれの排泄パターンの把握に努め、個々に合わせた声かけや介助を行っている。	布パンツの使用が3人、リハビリパンツが1人、1人だけオムツ使用である。お風呂の前に必ずトイレに行くが、それ以外は各自の排泄パターンによるトイレ誘導をしている。夜にポータブルトイレを使用している利用者もあり、排泄の自立やトイレでの排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維豊富な食材を多くメニューに取り入れ、便秘予防に取り組んでいる。排便の記録も残し、便秘の予防に生かしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2~3回のペースで入浴して頂いているが、お風呂は毎日用意しているので、希望に応じ対応している。	お風呂は毎日入る用意があるが、午前中に3人づつ入浴している。入浴剤を使用しているが、季節時には本物の柚子や菖蒲を入れて楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	清潔な寝具でいつでも休んで頂けるよう、朝の掃除や訪室した時など、汚れがないか常に確認するよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は説明書とともに職員が管理し、指示通り正しく服用して頂いている。又、症状に応じて主治医と連携し、状態に応じた服用を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴や日頃の会話の中から、一人ひとりの楽しみ、生きがいを探り、笑顔で日々を過ごして頂けるよう意識して支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調やお体の状態を配慮しつつ、ご家族とも協力しながら、利用者様の希望に応じて外出の支援を行っている。地域の祭りや花の見頃など情報収集にも努め、積極的に外出するよう心掛けている。	毎日、自分から散歩に行かれる利用者はいないが声掛けすると行かれる利用者もいる。行きつけの喫茶店にコーヒーのチケットを置いており散歩がてら利用している。花見には全員で行くことが難しいので分かれて行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお預り金として一定額のお金をグループホームに入金して頂き、利用者様のご希望に応じ必要な物を購入している。収支は年2回ほど領収書を添えて報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があれば事務所の電話をいつでも使って頂けるようになっている。会話の難しい方は代わりに電話をかけるなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔を心掛け、音や光の刺激に敏感な方もあるので、その都度小まめに調節するようにしている。	初めての来所では1階の玄関がすっきりしており受付がどこか戸惑うが、2回の施設に上がると個人の家のような空間と雰囲気がある。食堂兼居間の壁には「四季の壁」をテーマに色とりどりの絵や利用者の写真が飾られている。温度は25度に設定しているがこまめに調節している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士ゆっくりくつろげるよう、座る位置など配慮している。リビングに出て見えた時、必ず一人ひとりの座る場所を作るようにし、判り易いように個々の柄の違う座布団などを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お好みの家具を持ち込むことが可能なので、利用者様各々で居室を使いやすく、居心地の良い部屋作りをして頂いている。	居室には鏡と蛇口が付いた小さな洗面所を完備している。クーラーを完備し防災カーテンを使用している。窓は全面開放にならず利用者の危険に配慮している。使い慣れた家具や小筆筒を持ち込み自由にセッティングして安心して過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下など利用者様が移動される部分はほとんど手すりがついており、歩行不安定な方も出来る限り自分の足で歩いて頂けるようになっている。床面は整理整頓を心掛け、転倒防止に努めている。		